

専修学校の質保証・向上 に向けて

平成27年12月17日

北海道私立専修学校各種学校連合会常務理事
学校法人西野学園 理事長 前鼻 英蔵

質向上は何故必要？

- 職業実践専門課程が屋上屋を架す制度と考
えている。
- 評価は気にする必要ない。自分たちのしたい
教育をすれば良い。
- 限られた地域の限られた職種にしか通用しな
い事をしている。

大事な事は

- 自分たちのしている教育がどこでも誰でも通用しないといけない(教育の汎用性)。
- 自分の教育技術は完璧では無い(技術向上)。



- 我々が満足するのではなく、卒業後の学生が業界から満足を得られないとならない(PL)。
- そういったことを数値化するなり、分かり易い言葉で述べるなりしないとならない(見える化)

だから質の保証

- 大学競合校は、大学教育とどう違い、どう差があるかを見せつけるチャンス。
- 少なくとも職業人養成学校と自分たちの専門学校を標榜しているなら、直ちに取りかかるべきである！
- 資格取得率・数だけを競うのではなく、どういう人物を育てているのかが問題

大学に課せられた 三つのポリシーの策定

1. アドミッションポリシー(入口)
どういう人物を受け入れたいか
2. カリキュラムポリシー(過程)
学生にどういう内容で何を教えるのか
3. ディプロマポリシー(出口)
どういう知識・技術・技能を身に付けさせて、
社会に送りだそうとしているか

「3つの方針」の結合のイメージ



※文部科学省資料を編集部が加工

これらを

- 私達専門学校でしっかりと、高校の先生、受験生の保護者、受験生本人に分かるように説明できるのか。
- 公表して取り組む姿勢でやっているのかを見せられないのか。
- だから大学よりも良いと言えるのか。

そのために

- 自己点検・学校評価を行う必要が出てくる。
- これらは職業実践専門課程認定校では行わなくてはならない。
- 職業実践専門課程認定校でないからしないでは、誰がどのように学校の質保証を担保しているのですか？
- 今日をもって意識を変えて下さい。

では、DVDを見ましょう

手引きのP.41を開いて下さい。

まず自己評価があって、その結果を元に学校関係者がその結果を評価する、という事を理解できましたか？

自己評価

P.16を開いて下さい: 評価項目を設定する

ガイドラインP.55を開いて下さい: 評価の指標

ガイドラインP.34を開いて下さい: 評価表イメージ

P.18を開いて下さい: 根拠資料(大学と同じ)

その上で学校関係者評価

P.30を開いて下さい: 関係者とは？

P.32を開いて下さい: 実施法

P.37を開いて下さい: 結果公表

流れは理解できましたか？

- 具体的な細目については再度手引きを見て下さい。
- 担当する教職員と一緒に読み合わせする事をお勧めします。解釈を合わせるためです。
- その際には全専各連「職業実践専門課程」指針を合わせて読み合わせする事をお勧めします。指針は全専各連HPにバナーがありますので、そこからDLして下さい。

ご清聴ありがとうございました。